

進めよう・広めよう・
高めよう 文化の輪

第62回

吟と舞

『特別企画』尺八とのユラボ吟詠



と き 令和8年2月23日(月曜日・祝日)

(開場) 12時30分

(開演) 午後1時

と ころ 文化パルク城陽 ふれあいホール

(城陽市寺田今砥一番地)

主管 運営
主催 後援

城陽市詩吟舞連盟
城陽市文化芸術協会
城陽市・城陽市教育委員会・(公財)城陽市民余暇活動センター

大 会 役 員

会 長	今西謙莒		
副会長(主担当)	岩佐楽風(事業)	白田瀨嶽(総務)	
	荒川 寿貴(文化芸術協会理事)		
理 事	間 秀健	水谷寿翠	
司 会	岩佐楽風	水谷寿翠	
受付・接待	白田容山	吉原寿梨	
進行・連絡	間 秀健	杉山博一	
会 場	西村輝山	稲見寿尋	
音 響	荒川寿貴		
救 護 班	今西謙莒	岩佐楽風	水谷寿翠

大 会 次 第

- | | | | |
|-------------------------|-----------------------------|-------|--------|
| 1、開会宣言 | 城陽市詩吟舞連盟 | 大会副会長 | 白田瀨嶽 |
| 1、国歌斉唱 | 城陽市詩吟舞連盟 | 大会副会長 | 岩佐楽風 |
| 1、来賓挨拶 | 城陽市文化芸術協会 | 会 長 | 津守俊一 様 |
| 1、会員吟詠 (その-1) | | | |
| 1、会員吟詠 (その-2) | | | |
| 1、構成吟 | 京の雪月花 作:安藤 残雨
(構成:金崎 欣風) | | |
| 1、大会会長挨拶 | 城陽市詩吟舞連盟 | 会 長 | 今西謙莒 |
| 1、『特別企画』 尺八とのコラボレーション吟詠 | | | |
| 1、会員吟詠 (その-3) | | | |
| 1、会長吟詠 | | | |
| 1、閉会之辞 | 城陽市詩吟舞連盟 | 大会副会長 | 岩佐楽風 |
| 1、万歳三唱 | 城陽市詩吟舞連盟 | 大会理事 | 間 秀健 |

会 員 吟 詠 (その-1)

No	吟 題	作 者	サークル名	資 格	吟 者	本数伴奏	曲番
1	大楠公	徳川景山	神 心 流	無 伝	こやまりゅうたろう 小山隆太郎	1 燎燎	1
2	春を探る	戴 益	神 心 流	無 伝	えぐち のぶこ 江口信子	4 燎燎	1
3	城山	西 琴石	神 心 流	無 伝	くさか つとむ 日下 勤	2 燎燎	8
4	九月十三夜陣中作	上杉謙信	神 心 流	無 伝	さえき よねこ 佐伯 米子	4 燎燎	5
5	廬山の瀑布を望む	李 白	神 心 流	無 伝	ますだ たくゆき 増田 卓之	1 燎燎	1
6	小督の局	松口月城	神 心 流	無 伝	むらた しんぺい 村田進平	1 燎燎	7
7	峨眉山月の歌	李 白	神 心 流	無 伝	すぎやま ひろかず 杉山 博一	1 燎燎	9
8	江南春望	杜 牧	城陽詩吟塾	無 伝	でじま えい 出島 永	4 燎燎	5

会 員 吟 詠 (その-2)

No	吟 題	作 者	サークル名	資 格	吟 者	本数伴奏	曲番
9	宝 船	藤野君山	城陽詩吟塾	四 段	いちい じゅせい 櫛 寿正	水1 燎燎	5
10	山中春曉曉鳥声	高 啓	白田現代詩	上 伝	ひらき すいりゅう 平木 水琉	1 コンダクター	
11	春簾雨窓	願三樹三郎	白田現代詩	上 伝	もりかわすいしょう 森川 水勝	1 コンダクター	
12	春 曉	日柳燕石	白田現代詩	奥 伝	にしむら きざん 西村 輝山	3 コンダクター	
13	酒に対す	白居易	城陽詩吟塾	準師範	いなみ じゅしん 稲見 寿尋	6 燎燎	5
14	坂本龍馬を思う	河野天籟	城陽詩吟塾	準師範	よしはら じゅり 吉原 寿梨	5 燎燎	5
15	山中間答	李 白	城陽詩吟塾	準師範	みずたに じゅすい 水谷 寿翠	5 燎燎	5
16	後夜仏法僧鳥を聞	空 海	城陽詩吟塾	準師範	にしうら じゅかん 西浦 寿観	5 燎燎	5
17	両英雄	徳富蘇峰	城陽詩吟塾	準師範	さかい じゅこう 坂井 寿光	2 燎燎	5
18	有 感	山崎闇斎	白田現代詩	準皆伝	しみず たいざん 清水 泰山	1 コンダクター	
19	雪中梅を見る	寺門静軒	白田現代詩	準皆伝	うすだ ようざん 白田 容山	5 コンダクター	
20	春 曉	高杉東行	白田現代詩	準皆伝	ふくもと びざん 福本 琵琶山	5 コンダクター	
21	春 水	太 白	神 心 流	総 伝	はざま しゅうけん 間 秀健	水1 燎燎	5

22 構成吟「京の雪月花」 作 安藤残雨
吟者:荒川寿貴 金崎欣風 今西謙昌

ナレータ:岩佐楽風

大 会 会 長 挨 拶

23

城陽市詩吟舞連盟

会 長

いまにし けんしょう

今西 謙莚

『特別企画』

尺八とのコラボレーション吟詠

尺八演奏者： 長田精山 滝川紅山 加藤稀山 境井精英

No	吟 題	作 者	出 演 者	
24	河内路上	菊地溪琴 白田現代詩	上師範	うすだ せいがく 白田 静嶽 2
25	海南行	細川頼之 神 心 流	総 伝	はざま しゅうけん 間 秀健 水1
26	花朝灘江を下る	藤井竹外 城陽詩吟塾	上師範	たにぐち じゅゆう 谷口寿優 5
27	偶 成	朱熹 あやめ吟詠会	総師範	いまにしけんしょう 今西謙莚 4

会 員 吟 詠 (その-3)

No	吟 題	作 者	サークル名	資 格	吟 者	本数	伴奏	曲番
28	春簾雨窓	籟 鴨厓	城陽詩吟塾	師 範	あらかわ じゅき 荒川 寿貴	2	燦燦	5
29	江南春望	杜 牧	城陽詩吟塾	上師範	たにぐち じゅゆう 谷口寿優	4	燦燦	5
30	春日山懷古	大槻磐溪	城陽詩吟塾	上師範	でじま じゅしょう 出島 寿承	2	燦燦	5
31	絶 句	杜 甫	白田現代詩	上師範	うすだ せいがく 白田 静嶽			
32	花朝灘江を下る	藤井竹外	神 心 流	総師範	いわさ しふう 岩佐 桑風	8	燦燦	5
33	春 曉	孟 浩然	神 心 流	上席 総師範	かなざき きんぷう 金崎 欣風	1	燦燦	8

会 長 吟 詠

34	富 嶽	乃木希典	あやめ 吟詠会	総師範	いまにしけんしょう 今西 謙莚 4	燦燦	8
----	-----	------	---------	-----	----------------------	----	---

閉 会 之 辞

35	城 陽 市 詩 吟 舞 連 盟	大会副会長			いわさ しふう 岩佐 桑風		
----	-----------------	-------	--	--	------------------	--	--

万 歳 三 唱

36	城 陽 市 詩 吟 舞 連 盟	大会理事			はざま しゅうけん 間 秀健		
----	-----------------	------	--	--	-------------------	--	--

作 安藤残雨
構 成 金崎欣風
ナレータ 岩佐泰風

京 の 雪 月 花

(ナレージョン) まずは「春

夕刻を告げる鐘が聞こえてくる。黒谷の鐘であるが、それとも智恵院の鐘であつたか。
春の京都は、明けても暮れても、花に包まれてすばらしい。

桜の名所といえば、嵐山、御室、また、清水辺りが名高い。旅人は酒に酔い、花から花へと、
廻つてゆく。

吟 詠 京 乃 花 和 歌 吟 者 城陽詩吟塾 荒川寿貴

鐘聲黒谷智恵院 明花事花旧都春 見わたせば 柳桜を こきまぜて
嵐山御室又清水 遊子酔吟垂杖廻 都ぞ春の にしきなりける (古今集)

(ナレージョン) ついて、秋

待った甲斐あつて、快晴の十五夜を迎えることが出来た。月を賞で、月にうたいながら、

古都の秋を満喫している。

月の光は寂し気に光、満月はぐるぐると廻つているよつに見える。そして月の光は、加茂川の、
流れに映つて、金色の龍が、泳いでいるよつに見えて美しい。

吟 詠 京 の 月 和 歌 吟 者 神心流 金崎欣風

待得快晴三五夜 寶月蟠月旧都秋 石川や セミの小川の 悔食ければ
精光寂夏玉盤転 影映金龍洛水流 月も流れを なすねてぞすむ (鴨 長明)

(ナレージョン) そして、冬

朝、早起きをして、すだれを巻き上げてみると、雪がつもり一面銀世界である。この雪を、
賞で、古都の冬を満喫している。

雪のつもった金閣や銀閣の建物は、すばらしい景色である。また、比叡山や鞍馬の峰々も、

追つてくるようである。

吟 詠 京 乃 雪 和 歌 吟 者 あやめ吟詠会 今西謙吾

蹠起擁簾天地白 寶雪吟雪旧都冬 今日ほもし 登もや同うと ながれれば
金閣銀閣應桂景 迫我四明鞍馬峰 まだ跡もなき 庭の雪かな (藤原俊成)